

今月のトピックス「外来昆虫オオモモブトハムシについて」

1 外来の虫が見つかりました

熱帯（インド、東南アジア、スマトラなど）にいるオオモモブトハムシが、なんと松阪市で 2009 年に発見されました。河川敷の荒地で見つかり（図 1）、松阪市周辺で飛び地的に生息地が拡大しています。

体の長さが 2cm ほどもある、後足が太くて長いハムシの仲間です。濃い赤紫色の光沢があり、見る方向によってかすかに緑色に光ります（図 2）。



図 1 採集場所（クズの密生した河川敷）



図 2 成虫



図 3 幼虫がもぐって肥大したクズの茎



図 4 茎内の幼虫（8月18日撮影）

2 生態は

日本では今のところクズでしか確認されていません。

幼虫はクズの茎に潜って食害します（図 3、4）。成虫は 6 月から 8 月にかけて発見されていますが、何を食べているのかよくわかりません。年間 1 世代のようです。

加害されたクズの茎は肥大し、その中で幼虫のまま越冬します。そのため、クズ以外の餌があっても、日本では越冬できる植物が限定されると思われます。

表 1 外国で加害が記録された植物

多種の豆類（インゲンマメ、ソラマメ、フジマメなど） ヤマノイモ、サツマイモの仲間、カボチャの仲間、カンキツの仲間 トビカズラの仲間、アブラギリの仲間、センダンの仲間、など

3 何が問題なのでしょう

そもそも植物防疫法に違反して密輸され、野生化したのではないかと考えられます。

これまで日本にいなかった外来生物は在来の生物に害を及ぼすなど、環境に悪い影響を与えるおそれがあるので、野生化させてはいけません。農業の立場では、何らかの作物の害虫になったりすると大変です。

4 お願い

防除所では、松阪市周辺において農作物に被害があるかどうかを調べています。農作物でこの虫を発見した場合は、たまたま圃場に飛び込んできただけかもしれませんので、できれば加害しているかどうかを観察したうえで防除所にお知らせください。加害の有無がわからなければ、どの作物で見つけたか、だけでも結構です。